

おおもとウィメンズクリニックレター Vol.12 12周年記念版



女性に寄り添う婦人科医療

院長 大本裕之

「すべての女性のためのホームドクター」の基本理念は女性に寄り添う医療でなくてはなりません。近年重要視されている小児期・思春期・性成熟期・更年期・老年期と連続したライフサイクルを対象とした「女性医学」は、当院のような診療所においてまさに貢献できる産婦人科領域です。2020年東京オリンピックの期待は高まっていますが、厚労省の2020年風疹ゼロプロジェクト達成はこのままでは困難そうです。子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨が中止された女子たちが2020年には20歳を迎え、従来にもまして子宮頸がん検診の啓蒙をしておかなければ大変なことになります。クリニックデータにお示した子宮体がんの増加は当院においても顕著です。国の医療政策は重要ですが、婦人科医の地道な啓蒙、診療が有効なことはよく経験します。お祖母ちゃん、お母さん、娘さんとご家族の背景に寄り添ったお話ができる、当院もまさにそういう場所でありたいと思っています。さらに職員一同、日々研鑽しながら医療の質を高め、患者様と向き合い、クリニックの理念を目指します。これからもよろしく願い申し上げます。

平成最後のクリニックレター

副院長 大本佳恵

わがクリニックは平成19年2月5日に開院し13年目を迎え、また5月から新年号元年を迎えます。丸12年経って、自分でも他方的にみても医療に限らず様々な進歩や衰退を見てきました。また今後どう世の中が変わっていくのか予想もできません。開院以来15000人以上の患者様と出会いがありました。突然、若いスタッフを失ったこと、家族同様に親しくしていた医療関係の方との別れ、色々なことがありました。

何より、私自身の体調不良がなかなか改善せず昨年度も多くの患者様やスタッフ、院長にご迷惑、ご心配をおかけしたことに情けない思いで一杯です。でも、それだけに患者様の目に見えない痛みや苦しみを私事として感じられることだけは医師の立場としてプラスになり、悩める患者様への治療の一步を踏み出すきっかけにもなりました。

こんな私ですが、1年間続けられたこととして、エフエムふくやまさんで毎月第3金曜日の10時30分からの「おしえて、佳恵先生」という番組でタイムリーな産婦人科領域のトピックスや私の個人的なお話をさせて頂き、その放送をきっかけに当院に受診された患者様もおられました。ほかに小中高校へ生徒さんと保護者の方々への性教育講演会を機会あれば出向かせてもらっています。でもそういった対外的なこともこの診察室で多くの方から私が学んだことが大きな根っこになっていることは間違いありません。これからも体調とうまく付き合いながら、皆様のためのクリニックネットワークを拡げていきたいと思えます。

福山市ばらモデル花壇 認定継続中



〒720-0832 福山市水呑町 444-7

TEL: 084-920-5155

http://ohwc.jp

2018年度 クリニックのデータ

2018年は新規登録患者様930人、のべ11680人の患者様に来院いただきました。新規登録患者様数は例年同様に受診理由の多くは“ロコミ”でした。クリニックネットワークがさらに定着して、当院がこの地域に認められてきたことを嬉しく思います。子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など良性疾患の多くは倉敷成人病センター様の腹腔鏡下手術により患者様のQOLを保ちながら治療がなされました。悪性疾患は福山医療センター、福山市民病院、中国中央病院、倉敷成人病センター様などと病診連携をはかり子宮頸部上皮内腫瘍（高度異形成および上皮内癌）22名、子宮体がん17名、尿膜管癌1名、大腸癌1名の患者さまが適切な医療を受けることが出来ました。子宮頸がんは初期に検診で診断され、浸潤子宮頸がんはなく、一方で子宮体癌が著増していることが特徴的でした。これは最近の婦人科癌統計と一致しており、引き続き、子宮ファイバスコブ検査など検査体制を充実させて対応をして参ります。不妊症に対しては患者様が增加しており、子宮卵管造影検査を27名に行い、排卵誘発、タイミング法、人工授精までしか扱っていませんが、ストレスが大きくかからないような診療に配慮しています。高度生殖補助医療は倉敷成人病センター様などと連携を図り、よい成績を収めています。LEP製剤（低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬：月経困難症治療薬およびピル）は月平均359シート処方昨年より増加しています。他の選択肢としてディナゲスト処方、ミレーナ挿入も増加し、多くの女性の生活改善に役立っています。血栓症に対しては厚生労働省、学会の注意に従って適正使用を行い、下肢静脈エコーの充実と院内で末梢血、d-dimer測定が可能です。代替医療としてのアロマテラピー・エステは現在休止しています。



スタッフより

看護師

チーム一丸、家族のように。元広島東洋カープ 新井貴浩氏の言葉を借りれば、うちのクリニックにも当てはまる言葉です。院長を中心に、一つの医療チームとして強い結束力を持ち、今年度も患者様のお役に立てますよう努めて参ります。よろしくお願いたします。

看護師

今年が平成最後の年、平成31年は「御代替わり」という大事があり、改元が行われる重要な年です。私自身も勤続10年を迎え、節目の年になります。あっという間の10年でしたが、院長、副院長、スタッフに助けられ、患者様の言葉に励まされここまで来ることができました。今後も一生懸命努めて参りますのでよろしくお願いたします。

看護師

長く産科に勤務していましたが、昨年9月よりクリニックの一員になりました。婦人科の経験はわずかですが、日々学んでいるところです。

体のことで悩み、不安を抱える幅広い年齢層の女性がたくさんおられることを知りました。私にできることは患者様が診察に際して少しでも不安にならないように笑顔と思いやりのある言動で努めて参ります。

医療事務

婦人科に関する疾病もメディアで多く取り上げられるようになり、それをきっかけに来院される方も少なくありません。それだけ多くの方が、不安や悩みを抱えておられるのだと日々実感しています。そのような患者様に安心して診療を受けて頂けるよう、本年も努めて参ります。

医療事務

今年で勤続5年目を迎えます。初めは仕事を覚えることで精一杯でしたが、患者様のお役に立ちたい一心で頑張ることができました。これからも未熟ではありますが、少しでもお役に立てれば、嬉しいです。